

# 説苑

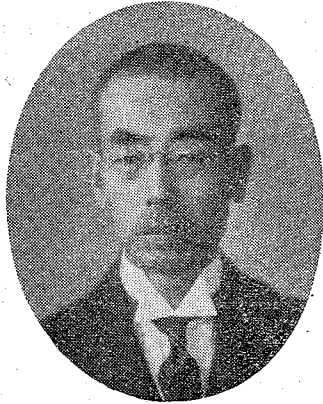


## 歴代内務土木局長と其時代 (二十一)

|| 赤松小寅氏 ||

清水生

榎本武揚と赤松の關係



頼朝が鎌倉に幕府を創設して以來約七百年の永きに亙る日本の封建政治は、徳川幕府は皇室から委任せられ

た兵馬の權を以て征夷大將軍として日本全國に軍隊政治を布いて諸侯の領地は一の軍管區として徳川の命令の下に執れも軍隊を以て統治したのであつた。即ち武門政治といはれてゐるが、それは恒常的に戒嚴令を布き、攻城野戰の精神を以て人民を治めたものであつて、その官廳は取りも直さず城であり、又その官吏は悉く武家であつて町奉行勘定奉行等々と云ふが如きものも畢竟現今に於ける警察官や財務官の如きものにあらずして、憲兵司令官や主計官乃至は

軍吏に相當するものであつた。かように根強かつた徳川幕府も彼の萬延元年三月三日に時の大老伊井直弼が少數の水戸浪士によつて櫻田門外に血を以て雪を染めて以來、徳川

幕府の權威を衰へ始めて、文久、元治、慶應と震揺三十年、安政の大地震よりも幕府の基礎を瓦解へ崩壞へと一步陥擠しつゝあつたのである。而して幕府の末期に於て喬木の倒れんとするを一枝克くこれを支へんとして飽くまで主戰論を主唱した。彼の榎本武揚、大鳥奎介氏等の舊幕遺臣は軍艦咸陽外二隻を率いて品川灣を脱走して函館の五稜廓に立て籠つたのは幕末の歴史の頁を増やしてゐるが、當時この榎本氏等の脱走組に是非共参加して舊主のためにその一命を捧げ棄てようと固き決心をした一少年があつた。榎本氏はこの少年に對して「お前はまた年も行かないからこれから尙ほ一層勉強して國家のために盡さなければならぬ」と諄々として説き如何に懇願するも連れて行かなかつたのであつた。この少年こそ後に海軍中將として、我が海軍造船界の權威であり、又日清戰爭當時は軍參議官

の要職に居り、永らく造船協會の會長にもなつてゐた男爵赤松則良氏であつた。

### 赤松氏の略歴

赤松小寅氏はこのやうな人を父として明治二十三年四月に靜岡縣磐田郡見付町に生れてゐる。勿論家は代々の幕臣であつて、彼の幕末の俊傑勝海舟や榎本武揚氏とは縁戚關係に當り、氏の母は榎本武揚氏の妻の妹御に當られるさうである。さうして大正四年七月には京都帝國大學法科大學政治科を卒業すると、同年の十月には文官高等試験に合格して、翌五年の二月に長崎縣の工場監督官補となり、更に六年十一月に同縣屬となつたが、同七年三月に長崎縣理事官に昇任してゐる。翌八年十二月には三重縣の理事官に轉じて、同十年六月には更に山梨縣の理事官となつて視學官に補せられてゐる。大正十一年十一月に本省に呼ばれて、内務省社會局の事務官となり、同十二年八月には瑞西ジュネーブで開催された第五回國際労働會議に政府代表委員の隨行を命ぜられて歐洲に赴き同年九月歸朝したが、間もな

く十二月に福井縣書記官警察部長となつて赴任し、昭和二年五月には山口縣の書記官警察部長に轉じてゐたが、同年五月に同縣の内務部長となり、更に同四年七月には長崎縣書記官内務部長に轉任してゐる。昭和六年十二月十二日に大養内閣が出来るると中橋徳五郎氏が内相として臺閣に列しその下に次官は河原田稼吉氏であつたが、その月の十八日に高知縣知事に榮轉してゐる。翌七年三月に社會局労働部長となり、同八年四月に第十七回國際労働會議が瑞西のジュネーヴに開かるに當つて氏は政府代表委員として出席のために再び渡歐し歸朝後は我が労働問題社會政策について大いに努力するところがあつた。

#### 土木局長在任は約八ヶ月

昭和十二年二月二日に陸軍大將林銑十郎氏に内閣組織の大命降下されて同氏の内閣が成立すると河原田稼吉氏は内相となり篠原英太郎氏が愛知縣の知事から内務次官となるに及んで、赤松氏はその八日を置いて同月十日に土木局長に社會局労働部長から轉任してゐる。而して氏の土木局長

在任期間は約八ヶ月にして同年十一月十四日に福岡縣知事となつて現京都府知事安藤狂四郎氏と代つてゐるが、氏の土木局長在任中の内務省首脳部を見ると、河原田内相の下に篠原英太郎氏はその女房役として次官の職に就き、地方局長に坂千秋氏、警保局長に大村清一氏、神社局長に兒玉九一氏、衛生局長に挾間茂氏と云ふやうな顔觸れであつた。この林内閣は無謀なる議會解散が動機となつて倒れ昭和十二年六月四日に近衛文麿公の第一次内閣に代ると内相は馬場鑣一氏から末次信正海軍大將と代り、また次官は廣瀬久忠、羽生雅則、館哲一の諸氏と三人代つてゐるが、氏が土木局長在任中には篠原次官に代つて廣瀬久忠氏が次官であり、地方局長は林内閣時代の坂千秋氏は依然として居残り、只だ警保局長に安倍源基氏更に新設の都市計畫局長に松村光麿氏がなつてゐる。而して氏は近衛内閣の後半すなはち末次内相時代に福岡縣知事に轉じ後ちさらに京都府知事に轉じたが、その後下野して現在在日本絹人絹配給統制株式會社の社長をしてゐる。これが赤松氏の略歴であ

る。

### 赤松氏と語る

筆者は某日氏を同社に尋ねて約一時間程會見したが、風采瀟洒にして何所かに貴公子然としてゐる。氏は

私の土木局長になつたのは林内閣が出来るると社會局から轉じたのであるが、夫れは丁度昭和十二年の二月であつて、土木局長から福岡縣知事に轉じたのは近衛内閣の時で同年十一月の四日であるから従て土木局長在任は僅かに約八ヶ月位の短かい間であつたから別にこれと云つて目立つたことも出来なかつたが……。

と氏は前述されて。

廣田内閣が林内閣に變ると馬場鑣一氏の大藏大臣が今度は現日銀總裁の結城豊太郎氏が就任して、馬場氏の準戦時財政とでも云ふか、税制の改正をやつたり公債募集したりして、豫算は非常に膨脹したが、結城氏が藏相になると例の緊縮財政方針をとつたために自然土木局の豫算にも非常に影響して來たのであつた。

と氏はこの時の模様を語つて。

全體土木局の豫算といふやうなものは伸縮自在の性質を帯びてゐるから、一度緊縮財政方針をとることになると、内務省所管では一番先きにこゝに大藏當局は目を付けるやうである。當時土木局の課長連はもともと土木局にゐた人達が多いので従て局内の仕事に總て克く精通してゐるので、私はこの人達に豫算を削減して貰らうやうにしたのであつたが、當時技監であつた辰馬氏とも癡議の上已むを得ず削減したが、一例を云へば當時は支那事變の影響を受けて道路改良費豫算總額も千百六十五萬餘圓に止められてその實行上少なからざる困難を感じたものであつた。……まあ土木局としては馬場財政はぬか喜びのやうなものであつた。

と笑ひながら話されてから。

### メキシコと泰國の土木工事

私の在任中確か昭和十二年の四五月頃と記憶してゐるが、外務省を通じて南米メキシコ政府から南北米國に通

する所謂縦貫道路の國內構築に付いて日本の土木技術界で負擔して其の工事費の見積を同國政府に出して、やつて見ては如何とのことであつたから、私はこれは我が優秀なる技術界のためにも亦海外發展の一資にもなるからと思ふて當時土木建築請負業者會の會長をしてゐる竹中藤兵衛氏にメキシコ政府からかういふ話があるから一つ奮發してやらんかと話したところ、竹中氏は大變乘氣になつて早速清水組や錢高組等當時土木建築請負界で錚々たる主なる連中に相談して委任組合の共同事業として引受けることになつたが、技術者問題を依頼するとのことであつた。夫れで私は嘗て土木出張所長をして勅任技師であつた牧野雅樂之丞氏が丁度遊んで居るので牧野氏を推薦したのであつたが、牧野氏はこれを承諾して技術員二三名を連れてメキシコに行き着手したが、其後國際情勢の變化で彼の國でも緊縮財政の結果でもあらうが、最後まで完成せずして少し位の着手で歸つて來た。夫れから又後に三井がやはり外務省を通じて泰國がメコン河

上流にあるベンコック港の修築や河川道路等について外國から其計畫設計等を蒐集してゐるから三井もこれに應募して見るつもりであるが、應募期限も最早や切迫してゐるからとのことと技術者の相談に來たことがあつた。夫れで我國の優秀なる技術を海外に示すことは丁度よい機會であると思ふて、何んでも出張所の若い技術者連中を呼んで徹夜までして圖面や模型まで作つて漸く間に合せて大牟田を出る三井の船に積んで泰國に持つて行つたことがある。應募の外國と云つても當時何んでも英國と和蘭位であつて獨逸は應募せなんだやうであつたが、當時英國の勢力は泰國に滲透して居たから工事まで引受けなかつたやうだが、兎も角日本の設計は一等であつた、

#### 技術者の待遇向上と養成

とて、氏はこゝで將來益々東亞共榮圈の確立につれて我國は種々の負擔をせねばならぬだらうが、殊に日本の技術は種々の開發方面に先驅をなすものであるからこの技術者養成に益々政府が力を致す必要のあることや、殊に港灣、

河川、道路と云つたやうなことは只だ單に民間の營利事業のみにては平素から優秀なる技術者の點等に於て缺けるところがあり、内務省には何んと云つても斯界の權威ある技術員が多く居るから一層技術者優遇についても深く考慮して益々その養成と研究に勉めなければならぬと語つて、勿論土木試験所の如きものがあつて常に研究を怠りなくしてゐるが、更に一層その規模を擴張して國策に連れて益々技術方面の向上に資することが肝要であると語られた。あと

#### 刈田築港と北九州工業地帯

私が土木局長から福岡縣知事に轉任してから計畫したのは刈田の築港であつた。これは石炭増産と共に若松港は既にその能力が飽和點に達して居り、又洞海湾築港もその擴張の餘地がないばかりではなく關門海峡は狹隘にして關西方面に輸出するに關門交通上多大の支障を來す有様である。そこで豊後海に面してゐる刈田を輸出港とすることは將來に互つて觀察しても最も必要なことは勿

論北九州の工業地帯は最早一ぱいに使用されてゐて擴張の餘地に乏しく、亦一度空襲のことなど考へ更に筑後炭は漸次奥の方に掘りつゝあつて鐵道を少し付け替へればよく、又關門海峡を通らないで關西方面にも十分輸出も出来るので、刈田港の築港計畫と共に刈田を中心とする第二工業地帯を縣營工場地帯として作らうと考へて非常に努力したものであつた。

と、氏はこゝで北九州に於ける工業地帯や石炭産出の模様等について縷々述べられて。

それで福岡縣會もまだ知らぬ間に企畫院のあと押しで築港豫算を通して貰つて、大藏省はこれを認めて、地元には僅かにその二割といふ殆んど例のない軽い負擔であつたが、私は敢て地方のこのみならず國家の益々發展のため日本の殖産工業地帯である北九州の前途に付いて深く考慮して刈田に着目したのであつたが、これは土木局に居たときにこの方面の事情等も克く研究もしたお蔭である。云々。

と。これが赤松氏と初対面の際に氏が筆者に親しく語られた大要であるが、若し多少でも誤りがあれば無論その責めは筆者にあることを斷つて置く。

### 氏の土木局長時代の道路改良

赤松氏が述べられたやうに、氏の土木局長時代は前年の廣田内閣に於て藏相馬場氏の準戦時財政方針を執つたために自然豫算も膨脹し、従つて土木局の昭和十二年度豫算編成に當つても彼の第二次道路改良計畫の實行策として産業伸長道路改良のため五ヶ年計畫を樹立し、この國費總額一億九千二百二十餘萬圓を計上した位であつた。尤もこの計畫は政府の財政の都合上實現を見なかつたが、兎も角馬場財政は土木局の豫算關係にも相當ゆとりのあるものであつた。然るに氏の土木局長就任當時は林内閣の下に結城氏が藏相となつて所謂緊縮財政方針をとつたのと、加ふるに支那事變の勃發に伴つて一部其の實行を制限するの止むなきに至つたので昭和十二年度即ち赤松氏の土木局長時代は道路改良について見ると、國道改良繼續費に於て四十五萬五

千圓を昭和十四年度以降に繰延べたるを以て差引昭和十二年度の道路改良費豫算額は千三百四十六萬八千餘圓となり尙この繰延と共に國道改良費五十萬圓及び特殊國道改良費十萬圓並に府縣道路改良費補助百八萬圓更に沖繩縣振興事業五千圓、鹿兒島縣大島郡振興事業費一萬五千圓等はこれ又何れも翌年度へ繰越支出することゝなつたのであつた。さうして昭和十三年度に於ても支那事變の益々擴大するにつれて財政も亦益々多端となつたので結局道路改良費豫算も千百六十五萬三千圓に止められて、その實行に多大なる困難を感じるに至つたのであるかやうの次第であるから、支那事變といふことは勿論國家の重大問題であり、何を扱つて措いてもこれを遂行せねばならないことは言ふまでもないが單に土木局のみを以て見れば先づ豫算關係から云つて受難の時であつた。従つてその仕事の上に多少とも影響を來したのであつた。

### 元次官篠原氏を訪ふ

筆者は知友平井氏の紹介で赤松氏が土木局長時代に内務

と云ふと、氏は。

次官であつた篠原英太郎氏を某日荏原中延の自邸に訪ふたのであつた。夫れは筆者の考へでは、頼山陽の言葉の中に「人間といふものは克くその人に遇ふて見んとその人物は判らず、亦その人に對面しても更に他人觀を聞く必要がある。更ればその人を批判するに大に役立つものである」とのことを思ひ出して、率直に云はゞ當時次官から見たる土木局長……換言すれば赤松小寅氏は篠原氏はどう云ふ風に見てゐるか、夫れを聞いて見たいつもりであつた。そこで刺を通じて面會を求むると、平井氏の紹介でもあり早速瀟洒なる應接室に取次の人が案内してくれた。待つこと暫時にして篠原氏は溫顔に微笑を含んで現はれて、親しく筆者を引見してくれたのである。筆者は初對面の挨拶が終ると端的に、

實は道路改良會の雜誌に土木局長とその時代と題して拙筆で書いてゐますので、あなたの御覽になる赤松小寅といふ人はどういふ人であるか、御尋ねは漠然としてゐますが、夫れを御伺ひしたいのです。

廣田内閣のあとに林内閣が出來て、河原田氏が内務大臣となられて、その下に私は次官となつたが、赤松氏は社會局の勞働部長から土木局長に轉任して來られたのである。……實は一言にして云へば立派な人である。私は常に尊敬してゐる。共に一所に仕事をしたが、却々出來る人である。殊に社會局に居られて非常に社會政策等を研究されこの問題には理解もあり、又造詣も深いやうである。又行政の第一線である地方行政にも携はつて居られたからなか／＼地方の事情に通じて居て到るところ相當の成績を擧げられてゐる。従つて行政事務には精通して居り云はゞ練達堪能の人である。……性格もまた立派でまあ溫厚篤實とでも云へよう。……私の次官時代に氏のやうな人が土木局長となつて來てくれたことは實によい人が來てくれたと思ふてゐた。

と。これが篠原氏の赤松氏に對する批判と云ふか人物觀と云ふか、兎も角筆者の問ひに對して語られた言葉であつ



た。夫れから筆者は氏の地方長官時代や朝鮮總督府參事官時代延いては朝鮮の殖産問題、北海道の拓殖問題東亞共榮圈確立に伴ふ我國の對策殊に港灣問題や次から次に互つて氏の卓見をも伺ひ又卑見を述べて遂に時の移るを知らず約五時間の永きに互つて御邪魔をした次第であるが、その間に現在食糧物資の欠缺の際に夕食まで頂戴したことは、筆者の性格とは云へ餘りにも無遠慮であると共に心から恐縮したのであつた。

### 南洲と甲東の相違

こゝで筆は一寸脱線するが、島津齊彬が嘗て松平慶永に面會した時に「我家臣多しと雖も大に用ゆるに足る者なしとゞ南洲一人は貴重なる薩州の至寶である」と云ひ、又藤田東湖は南洲を評して「南洲の氣宇は大である。これを用ゆるものは現在の諸侯中にはない。只だ烈公と齊彬あるのみ」と云つてゐるが、實にこの人は一箇の木強漢であつたが、赤手單刀よく維新の風雲を捲き起した英雄である。夫れ故に世は擧げて大久保と木戸を加へて維新の三傑と云ふ

のである。大久保もまた善謀英斷にして氣力を以て天下の政略を定めその手腕を以て天下の大事を辨じた絶代の政治家であつた。ところが人間と云ふものはその性格や其他いろ／＼と違つてゐるところがある。頭山翁の話によると。

### 甲東自慢の洋刀

大久保甲東が、ある時英國に洋刀を注文して金色燦爛たる素晴らしい立派のものを造つて心潜かに自慢してゐたが、それが評判となつて西郷の耳に入つた。ところが或る日西郷が大久保を訪問して話のあとに「時に大久保どんをはん立派な洋刀を作つたといふが、おいどんに見せてくれ」といふと大久保は床に飾つてあつた例の洋刀を出して見せた。西郷はそれを手にして暫時見詰めてゐたが「おはんこれを一寸おいどんに貸して貰ひたい」といふと、大久保も妙なことを云ふと思つたが、外ならぬ西郷であるから嫌とも云へず、西郷は無難作にそれを持つて歸つて仕舞つた。ところが西郷はそれきりいつまで經ても返さないで大久保も遂に待ち切れなくつて、あ

る時西郷に「おはん持つて行つたあの洋刀を返して貰ひたい」と催促すると、西郷は「あゝ、あれでござすか、忘れてをつた。實は二三日床の間に置いたが、書生どもが來て却々立派な洋刀ぢやと褒めるので、そんなに欲しけりや持つて行けといつたら喜んで何所か持つて行つたよ」と一向平氣なものであつた。そこで大久保のことであるから眞赤になつて怒つたといふことだが、西郷から見れば大久保ともあらうものが子供だましの洋刀などに大金を投じて金ピカを自慢するのはいかにも大人氣ない。殊に刀劍なら英國などへ注文して造らなくとも日本には古來から清淨な大和魂で造つた名刀はいくらでもあつてではないか。これを自慢にするのは取も直さず日本武士の魂を忘れて異國に頭を下げるやうなものだ。神州日本の大策は日本魂で樹立し敢行しなければならぬ。異國の淬をなめて得々としてゐる時ではないといふことを西郷は黙々として實行されたのぢや。大西郷の外交要諦は正道を踏み、國をもつて斃るゝの精神なくんば、外國交

際は全かる可らず、彼の強大に畏縮し圓滑を主として曲げて彼の意に従順するときは輕侮を招き却て破れ終に彼の制を受くるに至らんとある。我國の從來の骨無し外交などこの大西郷の精神と全く背反するものぢや。

と云つてゐるが、大久保甲東の度量は南洲の如く大ひなくまたその才略は木戸松菊のやうでもないが、政略を定める手腕は一頭地を抜いてゐる。維新の三傑にしても西郷と大久保又木戸とは異々その性格や其他の點に付いて違つてゐるところが多いのである。況んやその以下の人間に於ては行政官でも實業家でも其他有ゆる階級の人々の間でも異々違つてゐるものである。

### 馬上の威力が衰へる

赤松氏の家は祖先から幕臣であつたと他から聞いたから筆者は彼の徳川上期に剛健を以て世に誇つた三河武士であつたかと思はれる。その三河武士も多くは徳川の中末期なると腰物は輕いが肝要とあつて鮫鞘を選び、懷中に化粧道具を紙入に收めて持ち、豊後節の太夫號を取つて友人達に

誇り遂に一個不良の遊民と化した。さうして武士は斯くの如くであつたから一般社會の道德的腐は更に一層甚だしきものがあつた。政治、經濟、道徳、宗教は悉く紊れていふに忍びざる有様であつた。明治維新の尊皇攘夷の標語が最も明瞭に表示するやうに、勤皇精神の勃興とその思想が源となつて、外國勢力の壓迫が縁となつて、これが遂行が出來たものであるが、願へば關ヶ原の合戦以來馬上に於て天下を得たる徳川が、その馬上の威力が衰へてこれを顛復すべき政治的はた又經濟的原因はこゝにあつたのである。併乍らこの頽廢せる徳川末期に於ても、尙且つ剛健にしてその主家を思ひ又國家の前途を憂ふる士もないではなかつた。赤松家と縁のつらなる幕末の偉人勝麟太郎即ち海舟は當時世界の大勢を達觀して外國の干涉の禍を極力排除すべく大に努力してゐる。

### 勝海舟と榎本武揚

尾佐竹博士の幕末外交物語によつても當時波瀾重疊を極めた「幕末幾多の政變は幕府の背後に佛蘭西の支持があり、

薩長の後楯には英國の援助があつて、その代表者である佛國公使ロツシュと英國公使パークスの虚々實々の外交手段は幕末史劇の大詰を飾る偉大なる俳優の演技であつた」と云つてゐる程であるから、勤王佐幕の兩派を問はず具眼の士は如何にこれを恐れて、これが排除に苦心したかは窮れるのである。而して海舟は幕府側に居てもこれが杞憂の雄なるものであつた。この偉人は當底幕府の存續不可能なるを夙に觀破して、一方においては主家の興廢を思ふてこれが善後所置に苦心慘膽たると共に革新日本の前途に思ひを致してゐた。又最後に幕末を飾る一戦として碧血故城の荒草に濺いだ、あの五稜廓に立籠り後に明治になつて海軍中將として我が海軍の先覺者であつた、氣象沈毅風骨巍然たる榎本武揚氏もまた確か氏の伯父に當つてゐる。氏の先考もまた早くから和蘭に赴いて夙に造船術を深く研究しその剛健なる氣象は、若年にして榎本大鳥の兩氏等と共に五稜廓に據らんと固き決意を持つて脱走組に参加せんとして首領榎本氏に諄々として國家の前途を説かれて、その諫止を

受けて漸く思ひ止まつた程の剛健なる武士である。この人は後明治政府に於ても、その英才は認められて海軍中將となり男爵を授けられて我が海軍の造船にその持つ豊富なる智能を發揮して貢獻するところ多大であつた。日清の役當時は軍參議官の要職にあつたさうである。氏はかやうな人を父に持ちまた幕末の傑物海舟や榎本武揚子とは縁のつらなりを持つてゐるためか、温厚徳實の間に何所にか所謂剛健なところが見えるのである。又他方事に當つては周到であると共に果斷であつてしかもその頭腦は鋭敏である。更ればこそ篠原氏も云つてゐるやうに、氏は中央に居ても又地方長官として行政の第一線に立ちて到るところ相當の成績を擧げてゐる。

### 包圍陣形の分斷

今や現下の情勢は客月十五日皇軍の猛攻に依つて英國の東亞制覇の牙城シンガポールは完全に覆滅して仕舞ひ、米英を中心とする對日包圍陣のいはゞ扇の要は解けたのである。この扇の要が世界に冠絶する我が陸海空の武力に射抜

かれて包圍陣の扇はその役割を果し得なくなつたのである。而して星港陥落の影響または意義といふべきものを見ると、日本を中心とする東亞の將來とシンガポール喪失後の米英の地位の變化を二面から觀察するの必要がある。顧ふに我國は西において過去四年來の永きに互つて尨大なる地域に於ては支那事變を遂行しつゝ、更に太平洋の東、南、西、から米英を中心とする敵性國家の脅威を感じねばならなかつた。經濟援助の名に隠れて行つた支那事變遂行の妨害、對日經濟斷行、A B C D包圍陣の強化等々と一步々と我國をして身動きもならぬ死地に追ひ込んだのは、全く米英が太平洋や南支那海に有する優位なる軍事基地の存在を悪用して物を云はせた結果に外ならないのであつた。かくて我國は戰爭の場合は極めて苦しい内線作戰を取らねばならぬ立場に置かれたのである。然るに開戦劈頭米英兩國の東亞艦隊の擊滅は勿論、隣時にして米英の東亞支配の三大據點の二つである香港、マニラは陥落し、又ウエーキ、グアム兩島の占據と濠洲領ビスマルク群島に對する上陸作

戰の展開によつて米國の太平洋進攻作戰をして晝餅に歸せしめ、以て夢物語りにしてしまつたのであつた。そうして先づ東南の脅威を各個に順次擊破して内線作戰の窮地を救ひ得たと共に包圍陣形を分斷したのである。

### 軍事的經濟的永久不敗の態勢

米英にとつてはシンガポールこそは米國と蘭印並に濠洲を繋ぐ唯一の殘された要點として對日戰略上是が否でも餘命を確保せねばならない最大の重要據點地であつたのである。然るにこの據地の陥落で米英の東亞奮動の望みの綱も切れて蘭印も濠洲も殆んど孤立の状態に置かれると共に、ビルマ、印度の脅威を益々重加して對日包圍陣も完全に寸斷されてその體系をなさなくなつてしまひ、今後に於ける皇軍の太平洋作戰は如何に容易になつたかは想像に餘るものがある。而も從來我國に對して閉されてゐた南方諸地域の寶庫は近代軍備に絶對必要である護謨、錫等の軍事資源を米英に對して完全に逆封鎖するの情勢に立至り、以て米英の戰爭能力の培養に將來大なる脅威を與へる事になつた

のは全く皮肉である。かくて米英が東亞の擄取のために多年に互つて築き上げた東亞の諸要點は悉く東亞の指導者としての我國の手に歸し以て東亞には軍事的經濟的永久不敗の態勢が完成したのである。而してシンガポールの陥落に對する結果として重視せねばならない香港、マニラ、シンガポールは米英の東亞に對する飽なき野望遂行の三大據點であつたが、これが全部の奪取によつて東亞共榮圈の枠が完成し、従つて東亞のための東亞を實現するに偉大なる心棒となると共に、星港の陥落でマレー作戰は終結を見たので、我が大兵力に餘裕が生じて今後の事態には綽々として對處し得ることとなるのである。思へばシンガポールは世界帝國としての英國にとつては東の關門であつたから、この地の陥落を契機として英國の東亞に對する勢力は全く一掃される事になるのは勿論、英國は更にジブラルター、スエズ、アデレ、シンガポールを連ねて近東から印度を縛り上げるが如く重壓を加へ來つたことから觀察すると、シンガポールの失陥は英國の印度延いては近東諸國への壓力は漸次減

退を來たして行くことは必定であり、従つて其政治的な影響も亦極めて深刻なものである。兎に角シンガポールの陥落は作戰構想の大段落を劃する大東亞戰の豪華繪卷である

### 建設の大業

かくて米英の東亞における覇業は櫛の齒を折る如く一ツ／＼に墜落して行き、やがてはビルマは勿論英の最大寶庫といはるゝ印度の運命も危態に瀕することは確信して疑はないところである。大東亞戰爭は偉大なる戦果を次々と收めてゐるが、この果敢なる戦果に併行して建設の大業を進めて行くのは大東亞戰爭の當初からの大方針であるから、作戰の進展と共に建設の業も逐次に進捗しこれに順應すべき諸施設及びその運営に對しても夙に萬遺憾なき計畫が樹立されつゝあることは疑ふの餘地がないと思はれるのである。果然東亞共榮圏の建設方式に關して議會に於て東條首相からその政治的設計について又鈴木企畫院總裁からは經濟的設計についてそれ／＼大膽にして卒直なる説明をしてゐる。更に其他細目に關しては政府と議會との間に質疑應

答が繰返されて我國の今後進むべき途が明白になりつゝある。他方民間側に於ても各種團體に於て研究の結果を發表して活潑なる論議が展開してゐることは官民の智識經驗を總動員するの要ある今日誠に喜ぶべき次第である。政府も亦こゝに見る處あつてか、這般大東亞建設審議會を設置して大東亞建設に關する綜合的企畫並にこれが遂行に關する國家總力の發揮に完璧を期せんとしてゐるのである。

### 建設の根本問題

東亞の建設漸くその緒につきたる、今日その根本問題は尙一層徹底的の戦勝を得ると同時に我國の國力を強大にすることである。考うれば南方對策のうち經濟建設に關する論議は資源、通貨、産業立地の、三點に要約せらるゝのであつて、資源の問題は過剩となるべきゴム、椰子油等をどのやうに處置するやが問題にして萬一これ等物資の處分を誤ると忽ち現地住民の生活は多大の影響を及ぼし以て政治にも工作支障を來すのである、また纖維資源を如何にするか、これも重要問題である。若し夫れ通貨問題に至つては

軍票と現地通貨との調整並に回収及び物價等の關係に於いて現地に及ぼす影響少しとしないのである。産業立地の問題も日滿支及び南方の資源の分布状態、輸送關係及び國防治安等の見地から最も慎重を要するものである。而してこれ等の經濟的諸問題については南方住民の生活上にも深く思ひを致して各域の住民をして各々その處を得しめ以て、大東亞戰爭遂行の目的を達成せねばならないが、眞に大東亞共榮圈の確立を見るに至るには尙可なりの時日を要するのであつて、夫れまでは多少の摩擦の生ずることは已むを得ないところであると思はれるから、一時南方諸民族に對して不自由を與ふるが如くなるも南方物資を處理して我國力を充實するためには誠に已むを得ざる措置であると共に、東亞共榮圈の建設途上に於ては南方諸邦も亦我國と苦樂を共にする覺悟を持つことを要望するのである。

#### 先づ人間が第一

かやうに思を致すと現下我國の内情勢は東亞の黎明期を迎ふると共に誠に多事多難である。例へば南方經濟の處

理方策の如何は直ちに我が經濟界に與ふる影響の甚大なることはこゝで云ふまでもないのであつて、これを思ひ、あれを思ふと要は益々人材の必要を感ずるのである。嘗て獨逸の經濟相フンク博士は「總力戰の意義は有能の材を空しくしない點にある」と喝破したことがある。誠にその通りであつて、凡てのことは如何なる大事業と雖も皆な人間が爲し遂げるのである。これを無視しては何事も出来ないことは敢て世界興亡の歴史に見るも亦小にしては一會社の事業に見るも同様である。換言すれば大東亞の共榮圈の確立といふやうな我國歴史以來の空前の大事業もまた人間がなすのである。要は今日の如き國情に於て有能の士を一人たりとも適材適所に活躍せしむることが取りも直さず總力戰に對處し高度國防國家の建設に寄與し以て、我國不動の國策完遂に資する所以である。赤松氏はこの意味に於て現在

#### 共榮圈と纖維問題

纖維界……國策に沿ふた絹、人絹織物の統制會社である日本絹人絹統制株式會社の社長に推擧せられてゐる。前記し

たやうに東亞共榮圏の漸次確立するにつれて、纖維問題も却々重要な問題と化して來る。殊にアウタルキー經濟論の立場から我が國民經濟を概観すると榮養資源は完全自給の強味をもつが、主要産業が單純産業の範疇に隸屬することが弱點とされてゐる。國民經濟上大なるウエイトをもつ綿糸紡績業と製糸業は輸出産業として高度に發達してをり、これが運營の益を以て國民經濟生活に缺くべからざる金屬資材や機械類など海外市場から購入してゐた事は當面せる非常時經濟に於て輸入力の増大補強のため動員される事實に見る通りであつた。しかるに綿糸紡績業はその原料棉花を米英に求め販路を英帝國の市場に求めてをり、又製糸業は國產原料を使用してゐるが、米國の需要の消長に全生命を托してゐたのである。かくて米英兩國はこの弱點に乘じて經濟戰を仕掛けて來たのである。我國としては米英の經濟封鎖に對するには生産力の擴充目的、達成と國防安固を確保する爲に國民經濟の兩編成の緊要を生じたのである。そうして高度國防國家建設の第一着手として鐵鋼業の自給

獨立策が實踐に移されたが非指定産業にして輸出産業として高度の發展を遂げてゐる纖維工業特に綿糸紡績及び羊毛紡績は逸早く經濟新體制要綱に則つて企業聯合の機構を改革して指導者原理に導入すると同時に業界は一應の整理統合をして、重點主義的なる活動可能な體制に再組織を完了したのであつた。又製糸業は蠶糸業統制法によつて再編成せられて輸出本位の生産體制は清算され、昨年からは輸出、國用、代用短纖維の三本建の計畫生産が實施に移されたのである。又織物製造業者合同要綱も昨年十一月に發表されて纖維原料別專業主義によつて統合基準はスフ織物業織機三百臺以上絹人絹及び毛織物業各百臺以上と規定されたのである。而して織物業全體は再編成に進み更に配給統制の完璧を期したのである。……今後東亞共榮圏の確立につれて我が纖維界も益々重要に活動せねばならない經濟界は實に複雑極りなきものであるから赤松氏の如き行政事務にも克く精通してゐる有能の士がよく時局に即應して新經濟體制に則つて爲邦家活躍さるゝことは喜ばしい次第である。